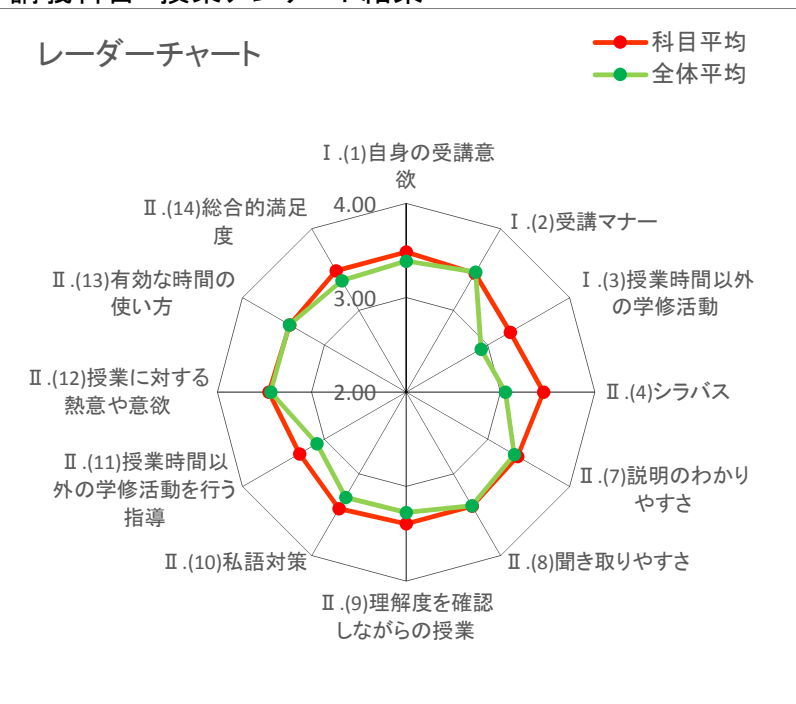
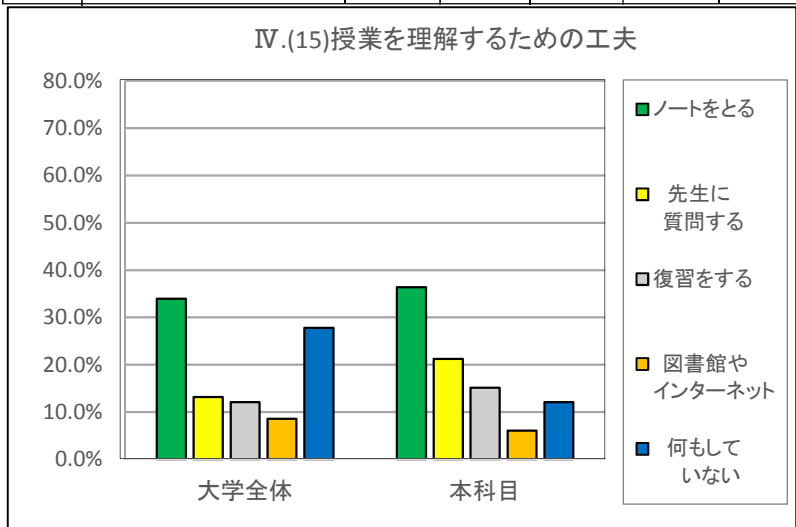


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2.(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	36.4%	21.2%	15.2%	6.1%	12.1%



アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

		設問No	科目平均	全体平均	授業年度	2014年度 後期	
受講姿勢	自身の	I.(1)	3.48	3.39	時間割番号	13312	
		I.(2)	3.45	3.47	科目名	経営倫理学Ⅱ	
		I.(3)	3.27	2.91	教員名		
受講内容・方法		II.(4)	3.45	3.05	①授業計画の達成度について		
		II.(5)			授業の開始時に、詳細な「予定表」を学生に渡し、それに則って授業を進めてきた。下述のように、学生との「対話」、Q&Aを重視したので、質問への回答にかなりの時間をとられたこともあり、微調整を必要としたが、概ね、予定した内容を消化できた。 授業終了前に、毎回、受講生に、今日の授業でわからなかったこと、疑問点等を半ば「強制的に」「何もし」「ありません」類の記載は禁止である、と説明して)書いてもらったが、後半になって、「記載なし」の学生が出始めた。一部の学生に「難易度が高い」と感じさせたのか、学生の問題意識との「ズレ」があるのか、授業において説明不足となることがあったのか、今後の検討課題である。		
		II.(6)					
		II.(7)	3.36	3.32			
		II.(8)	3.39	3.39			
		II.(9)	3.39	3.27			
		II.(10)	3.42	3.28			
		II.(11)	3.30	3.09			
		II.(12)	3.45	3.43			
		II.(13)	3.42	3.43			
		満足度	II.(14)	3.48			3.36
							毎回の授業の構成は以下のものであった。 1 前回の授業内容についての質問に答える 2 シラバスに従って、当日の授業を進める 3 次回に質問に答える旨の説明をして、受講生に本日の授業でわからなかったことや疑問、常日頃疑問に感じていること等の記載を求める。 上記のように、「何もし」「ありません」の記載を禁止することによって、受講生が理解できていないこと、担当者の説明不足の箇所、彼らの問題意識等を、知ることができた。
					③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について		
					昨年度から評価が「全体平均」を上回るようになったことを受けて、学生との質疑応答の場を徹底させた。そのためか、全体平均よりも低い評価はほとんどなくなり、学生の満足度が「高くなっている。授業で受講生との一体感を強く感じる時間があったのもこのためであろう。 他方、「学生の受講姿勢」の数字が芳しくない。これは後期になって学生が講義スタイルに「慣れてきた」という一面もあろうが、また担当者の「独り相撲」だったのかと思った一昨年度の「苦い思い」がよみがえってくる。次年度に、学生から自主的に学ぶ姿勢を引き出すための具体策を、例えば、単に課題を出すだけではなく、授業終了時のアンケート内容を工夫するなど、検討する。		